

報道関係各位

2016年3月4日  
株式会社ストライプインターナショナル

## グローバルブランド KOE から 飲食店併設のライフスタイル型新業態「KOE HOUSE」 ～2016年秋 自由が丘にオープン～

株式会社ストライプインターナショナル(本社:岡山県岡山市、代表取締役社長:石川康晴)の展開するグローバルブランド「KOE(コエ)」は、2016年秋自由が丘に、飲食店を併設し、アパレルを中心として生活雑貨も展開するライフスタイル型店舗をオープンいたします。

東京23区内では初出店となる新店舗「KOE HOUSE」は「家」をコンセプトとし、クライン・ダイサム アーキテクトが設計した建物です。建物の素材には木を多用し、売り場は地下1階、地上3階の4層展開となっています。



外観イメージ

1Fでは、株式会社ギャザーの谷祐二氏がプロデュースするサラダショップ「KOE GREEN」を展開。関東近郊の野菜を使ったサラダや、オーダーメイドサラダが楽しめ、ショップ内で使用する一部食器や生活雑貨も販売いたします。2Fはレディースアパレルのフロアです。ベーシックなラインを中心に、日常着として着られる洋服を提案いたします。最上階は「キッズルーム」とし、パーティーグッズを中心としたキッズ向け雑貨とキッズアパレルが充実。さらに、地下1Fでは、メンズアパレルとともに、間伐材を使用した食器や玩具等生活雑貨も扱います。

今回登場する新業態は、KOEのブランドフィロソフィー「Healthy」「Ecology」「Happy」「Relax」「Clean」を体現する店舗と位置付けています。サラダショップの併設や中山間地域の間伐材を使用した商品開発による地域振興など、様々な体験や商品を通じて、健康や環境への関心を、日常的にオシャレに取り入れてもらうことを考えました。

KOEは、これまでのアパレルを中心とした業態に加え、新たに「ライフスタイル業態」を開発したことで、今後はより出店エリアやチャンネルに合わせた店舗展開を行ってまいります。また、2017年に計画している都心への旗艦店舗出店、そして2020年以降の欧米進出を見据え、さらなる商品開発やマーケティングの強化に取り組んでいきます。

## 【KOE 自由が丘店 概要】

住所: 東京都目黒区自由が丘二丁目 9 番 19 Gビル自由が丘 01 B 館  
店舗面積: 200 坪

## 【フロア構成】

3F: キッズアパレル、キッズ雑貨

2F: レディースアパレル

1F: サラダショップ、生活雑貨

B1F: メンズアパレル、生活雑貨

## 【フェアサプライチェーンでつくるブランド KOE】

商品をつくりお客様に届けるまでのプロセスが、サプライチェーンです。当社の服でいえば、例えば農家で綿花を栽培・収穫し、それを元に糸をつくり染色し、生地を織り、裁断・縫製して品質を確認してから倉庫や店舗へ届け、販売するまでとなります。この間には、たくさんの企業や人が関わり、環境や経済に影響を与えています。そしてそこには、児童労働や過酷な労働環境、また工場の廃棄物による環境汚染など、深刻な社会問題も存在します。

アパレル企業が持続的に事業を成長させていくためには、このような社会問題と向きあい、解決することが不可欠です。工場が環境が整っていなければ、本当に品質のよい商品をつくり続けることはできないからです。

高品質な商品を適切な環境でつくる、どこにも“歪み”を生まない“フェア”なサプライチェーン。それが、当社が目指すフェアサプライチェーンです。

ブランドコンセプトである『LISTEN TO MY VOICE ~「わたしの、声を聞こう。」』は、自分の内なる声に耳を傾けると同時に、世界中の人類や動物、木々、空気など地球上すべての声に耳を傾け、そこから聞こえてくる人権、労働、環境などの社会問題、地域問題などと向きあうことを意味します。フェアサプライチェーンは、このブランドコンセプトを実現するために欠かせないものです。

KOE では、フェアサプライチェーンの仕組みにより製造した商品を取り扱っています。縫製工場のフェアサプライチェーン監査を進めるとともに、素材についてもフェアサプライチェーンの理念にあわせて選定。リアルレザー、リアルファー、リアルダウンなどの素材は理念に沿わないものとして使用しないほか、オーガニック素材を積極的に取り入れました。その一環として、オーガニックコットンの普及を目指すプロジェクト「オーガビッツ」(※1) に賛同して原料の 10% 以上にオーガニックコットンを使用した商品を販売しています。これらの商品には「オーガビッツ」のタグがついており、商品 1 点につき 10 円を国際 NGO 団体「プラン」のグローバルキャンペーン Because I am a Girl」(※2) に寄付しています。

(※1) 繊維専門商社の豊島株式会社が推進している、オーガニックコットンを通して、みんなで“ちょっと”ずつ地球環境に貢献しようという想いから始まった、社会貢献プロジェクト。

(※2) 女性であるためにさまざまな困難に直面する途上国の女の子たちの問題を訴え、彼女たちが「生きていく力」を身につけることで、途上国の貧困が軽減されることを目指すキャンペーン。

## 《代表取締役社長 石川康晴のコメント》

当社は 3 月 1 日付で社名を変更いたしました。この新社名で、東証上場に向け新たなスタートを切り、本格的なグローバル進出とテクノロジー領域強化を目指します。KOE は、当社グローバル展開のキーとなるブランドです。まずはこの自由が丘店出店、そして来年計画している東京都心部への旗艦店舗出店で認知度向上とブランド力強化を図っていきます。国内でしっかりとブランドを構築し、2020 年以降の欧米進出への足がかりとしたいと考えています。

### クライン・ダイサム アーキテクト

クライン ダイサム アーキテクトは、建築、インテリア、インスタレーションといった複数の分野のデザインを手掛けるマルチリンガルオフィスである。RCA を修了したアストリッド・クラインとマーク・ダイサムにより 1991 年に設立。現在では国際的評価も得て、注目を集めるクライアントと様々なプロジェクトを進めている。

インスピレーションとクリエイティヴなエネルギーに溢れる街、東京を拠点とする KDa の斬新なアイデアと作品は、日本特有の新しいものに対する渴望やものづくりにおける素材とディテールに対する高い感性、そして絶えず変化する都市の生活環境に影響を受けながら形成されている。東洋と西洋のそれぞれ優れたところを取り入れることにより、KDa は新鮮な視点で独特のプロジェクトを創造し続けている。

2003 年に 2 人によって考案された「PechaKucha Night」は、デザイナーやクリエイターらが互いに創造性を共有するプレゼンテーションの場として世界各国に広がり、現在では 800 以上の都市で開催される世界的なイベントへと成長している。代表作に代官山 T-SITE、SHISEIDO THE GINZA、Google Tokyo Office など。

American Retail Environment Awards や D&AD Awards、World Architecture Festival Awards 他受賞多数。

[www.klein-dytham.com](http://www.klein-dytham.com)

### 株式会社ギャザー 谷祐二氏

老舗のフレンチレストランで修業後、株式会社ウエルカムに料理長として入社。京都、自由が丘、横浜等の新規飲食店舗出店の立ち上げを担当する。2007 年西麻布に「HOUSE」をオープン。以降も、大阪や青山で店舗のプロデュースに携わる。

2015 年株式会社 Gather (ギャザー) を設立。同時に、西麻布「HOUSE」のオーナーとなる。代官山「personal jesus café」などをプロデュースする他、近年は福井県若狭湾の地域復興イベントメニュープロデュースや、表参道の POP UP レストランのフードディレクションを務めるなど、食に関する幅広い活動を展開している。